

No. 47

1979.

9. 30

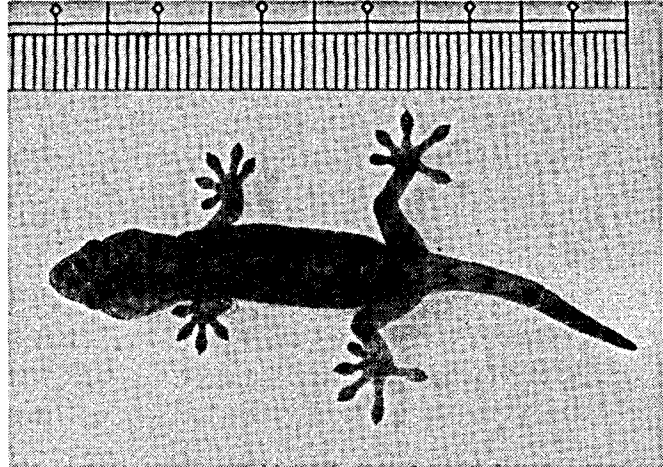
岐阜の博物館

編集
兼
発行

〒483 羽島郡川島町
エーザイ工園
内藤記念くすり博物館内
岐阜県博物館協会
TEL (058689) 3111
内線 540
振替 名古屋 70106



博物館と 調査研究



博物館法の「～資料に関する調査研究をすることを目的とする機関～」をもち出すまでもなく、博物館たるものは公私・大小を問わず、ものについての学術的調査研究及び資料保存上の教育的科学技術的調査研究を、基本的な機能として持っているはずである。そのことを忘れて、何を収集し、どんな展示をし、さらにどんな教育活動をしようというのだろうか。たとえ、私的な個人経営の小さな施設であっても、要はそこにいるヒト……の熱意、つまりやる気の問題である。展示品にかかわる何かひとつのことでもいい。確かな調査研究を進めるヒト……がひとりでもそこに居れば、その集積された情報やデータは、展示や教育活動の基礎資料となるし、多くの人々へのデータバンクとなりうるのである。つまり博物館たるかどうかは、まさにそこに居るヒトの姿勢にあるといっている。

その意味からしても、本号から始まった調査研究レポート、「下呂周辺の爬虫類」は、ひとつの事例として大いに注目される報告である。本県は、全国的にも類をみない博物館及びその類

似施設等の数の多いところである。残念なことには、その多くはあるものを見せている……段階にとどまっているのが現状である。しかし、「もの」があることの強みの中で、予算があるなしにかかわらず、やる気になれば、他ではできない調査研究が出来るはずである。県下博物館界の質的発展のために、これからのこの面での深まりが望まれる。

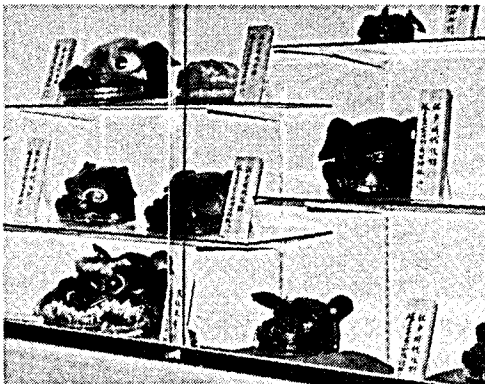
博物館資料の整理といっても、図書館が図書を整理したり、会社が物品を整理したりするのは本質的に違っている。生物資料の整理を考えてみよう。それがどういう種にあたるか、名前ひとつつけるのにも、つまり同定という作業は、それ自体が研究たりうるのである。地球上にふたつと存在しない生物の個体——それがどの種に属するかは、多くの文献、標本に当たり、その個体差、種内変異に注目して判断しなければならない。こうした資料整理上の特異性は人文資料についても同じであろう。たとえささやかな調査研究でも、それをやるヒトの有無こそが博物館たりうるかどうかの分岐点である。(K.H.)

飛驒高山 獅子会館

▽506 高山市桜町（屋台会館隣り）
TEL 0577-32-2018

日本全国いたるところに、じつにいろいろな形式・内容のお祭りがあります。そのお祭りに登場する獅子舞も、地方地方でそれぞれ特色あるものとなり、日本各地の伝統芸能として今日にも継承されてきています。しかし、都市化現象の激しい波につつまれて、こうした伝統芸能も受継く若者がなく、絶えてなくなっていったところも多いのが現実です。日本の文化遺産としてかけがえのない獅子頭等の諸資料が、国外へ流出することもあり、こうした現状を何とかくい止めようと、田端計栄氏は過去40年近く、独力で獅子頭の収集保存に熱意をこめられました。

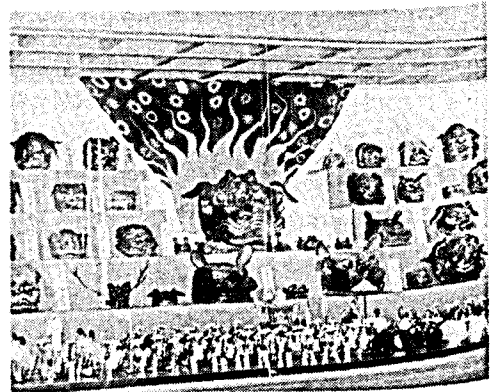
この獅子会館は、田端氏の獅子頭の一大コレクション300点ばかりを公開したもので、室町時代の古いものから、あるいは、関東東北の獅子、加賀獅子、伊勢獅子、南方系獅子といった地方色まで、じつに様々な獅子頭が体系的に展示されています。そのひとつひとつにじっと見入ると、どの頭にも、威厳のある風格の中に、人間の底抜けな明るさが読みとれて興味つきません。ズラリと並んだ獅子頭……の数々、これをどう



観賞し、そこから何を受けとめるかは、見学者ひとりひとりによって違っていても当然です。しかし、その展示された静かな頭が、ひとたび獅子舞として人間に使われると、まるで生き物のように表情を持ってくるから不思議なものです。実演場が併設されており、1日6回、時間を区切って、飛驒地方の伝統民俗芸能である獅子舞が紹介されており、また実演とは別に、飛驒の祭りや獅子舞が、ビデオテレビで常時上映されています。静なる資料展示室、動なる常設実演場とビデオテレビ、～獅子頭というきわめて特異な狭い分野の博物館施設として、注目される所似です。

展示室内正面奥の展示ケース内には、高山祭りの行列が人形模型で示され、その後方に並べられた大小様々な獅子頭の数々、これこそアッと驚くばかりの圧巻です。また二階展示室には、飛驒旧家秘蔵の美術品・歴史資料等があります。

開館時間 4月～11月 8:30～17:30
12月～3月 8:30 17:00
入館料 大人250円 小人150円
(30人以上団体割引あり)



民俗資料の整理と 調査カードづくり(一)

明方村歴史民俗資料館々長 金子貞二

昭和39年に、中学校が、主として民俗資料の収集を始めた当初は、物をどう整理していくかというようなことよりも、こどもたちとどのように協力し、分担して進めていったらよいか、家いえとは、どのようにつながっていけばよいか、といったことに明け暮れた。

とにかく、提供された物は、たとえ紐一筋、古新聞一枚でもそつにせず、名前など取り落とさないように心掛けた。

それから間もなく、文化財保護委員会の〈民俗資料調査収集の手びき〉という冊子入手し、これを参考にして分類することにした。しかし、集まった物を前にして考えてみると、当然ながら実情に即さない面もあるので、表のように、考古・軍隊・戦時生活・銃砲・刀剣・よろいかぶと・文書記録(絵画を含む)・書籍(写真や絵葉書を含む)・教科書・学習帳・自習書を加えて、大分類を32とした。

それにしても、たとえばシクヤシク織りは、養蚕に入れたがよいか、手仕事に入れたがよいか、運搬具は一つにまとめるべきか、それとも、それぞれの生産に含めたほうがよいか、今でも思い迷うことが多い。

さて、一旦分類を決め、台帳を作ってしまうと、よほどのことでもやり直しにくい。現在大分類については、大した不便は感じないもの、それぞれを細分化した中小分類、特に中分類の間には、受入れの際の不便が目立つ。これら

は具体的な例示がなかったため、分類と同時に確たる例示が是非必要である。

その後、日本民俗資料事典が刊行され、具体的に研究された大和民俗公園建設室の民具分類表試案(佐野正隆氏紹介)があり、最近では、文化庁の〈民俗文化財の手びき〉が出た。いずれも例示がなされていて便利である。

何よりもまず集まってくる物の顔ぶれを見極め、合理的で扱いやすい独自のものを考え、例示もできるだけ詳細にしておくとい。

次に、収集台帳(調査カード)の作成についてであるが、どう考えても及第点はもらえない。いざ、重文申請ということになると、製作地・製作者氏名と生年・製作年・製作方法(素材や構造)・使用地・使用者氏名と生年・使用年代・使用方法など詳記せねばならない。

収集の都度、エフに要点が記入できるように印刷し、その記入を求めても、大半の事項は不明であった。正直なところ不明であったらうし、調べあげるだけのゆとりもなかっただろう。

ただ一つ幸いしたことは、先年まとめた〈奥美濃よもやま話—5巻—〉が手許にあった。これは、物を集めるだけでは十分でない。物と共に生きた人びとを活写して残さねば、後の人たちが、せつかく物の前に立っても、その息吹きを感じ取ることはできまい、という思いからの所産である。これが思わぬ時に役立つくれた。

総数23,076点、内生産関係 2,037点国の重要有形民俗文化財

分類	点数	分類	点数	分類	点数	分類	点数
ア考古	4,626	ケ養蚕	1,216	チ経済	1,608	ノ銃砲	37
イ衣	1,079	コ畜産	177	ツ社会生活	746	ハ刀剣	24
ウ食	1,264	サ鉱業	51	テ信仰	92	ヒよろいかぶと	3
エ住	601	シ染織	844	ト民俗知識	966	フ文書記録	3,680
オ農耕	526	ス手工	152	ナ趣味娯楽	288	ヘ書籍	1,944
カ山樵	490	セ諸職	214	ニ人の一生	378	ホ教科書	1,380
キ漁撈	42	ソ交通通信	233	ヌ軍隊	153	マ学習帳	74
ク狩獵	15	タ交易	38	ネ戦時生活	52	ミ自習書	83

飛驒地方，下呂周辺の爬虫類(1)

元下呂町爬虫類の森勤務 武藤 暁 生

1974年から1975年の2年間に、下呂町内を走る1用水路の集水槽に流れてきた爬虫両生類を幾度かにわたって採集してきた。これらの爬虫両生類は、おそらく用水路へ落ち込んで集水槽まで流下し、そこに滞留していたものと推測される。ここに出現したものの構成は、フィールドで意識的に探索して採集したものとは異なるであろうから、下呂周辺の爬虫両生類相、およびその生活史を知る上で、かえって好適な1指標となるかも知れない。本報ではこれらのうち主として爬虫類につき、この集水槽外(でのフィールド調査—当用水路周辺を含む下呂町一帯)の結果をも若干加味して報告する。

1. 用水路・集水槽の構造，その周辺の環境 (図1, 2)

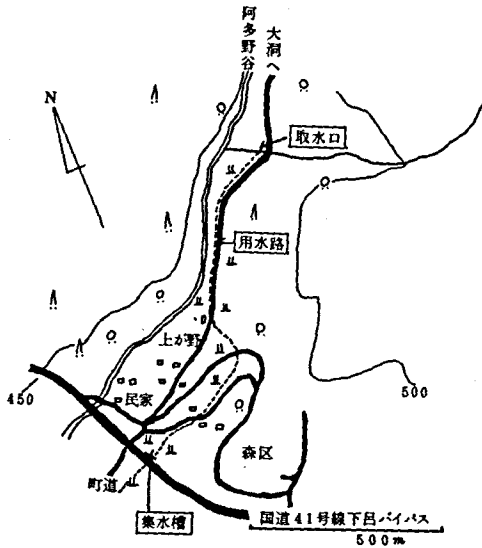


図1. 用水路，集水槽周辺概図

飛驒川へ注ぐ阿多野谷の支流より取水している用水路は、直線にしてほぼ1km走ったところで、この集水槽につき当たる。この集水槽は、国道41号下呂バイパスをはさんで第2の集水槽とサイホン式に連絡し合っている。バイパス



図2. 集水槽に落ち込んでいた爬虫両生類
下を通った用水は、対面の集水槽へいき、再び町道に沿って町の中心地へ下ってゆく。この用水路は幅、深さ共30cmほどのコンクリート製U字溝で、山の方から下ってくるため、その傾斜角は30°ぐらいになっている。用水が深ほどの用水が流れていて、勾配が強いため水の流れはかなり速い。

コンクリート製集水槽の大きさは、200×110、深さ150cmの直方体状で、用水はいつも底面から50cmあたりまで満たされている。

このような構造から、いったん用水路へ入り込んだ動物は、その流れの速さに抗しきれず、集水槽まで流されてしまい、しかもそこで沈下しない限り対面の集水槽やそこから出る用水路へは流れてゆかない。この第1の集水槽(本報におけるもの)には、そのほかゴミ類が常時浮いていて、町民が適当に除去しているようである。同様に流入してきた爬虫両生類は、それらの上に乗ったりして、ほとんどの個体は生きたまま採取することができた。

水田は段々になっており、その段差は石垣で築かれている。民家や町道沿いにも石垣は多い。そのほか用水路沿いに、養鯉池と畑がわずかに点在する。このような環境は下呂町にごく普通である。また、このようなところにある用水路は、主として水田、養鯉池のためのものであり町内によく見かけられる。その目的のため、用

水路間にその底面から1m四方ほどのマスを掘り込み、そこに径5~8cmのゴム製の管を入れ、落差によって田や池へ取水しているが、こうしたマスは本報の用水路間にはない。

1. 種類と構成

この集水槽へは2年間に通算48回、不定期に通い、爬虫類については7種108個体、両生類7種161個体以上を記録した(図3)。それ以外にも通ったが、爬虫両生類は入ってなかった。種類、個体数は図3に示す。用水路始点から集水槽までわずか1km足らずの距離、しかも偶然にして落ち込んだものばかりであるから、これはこの周辺の爬虫両生類の種類、数の豊かさを物語っているのであろう。

その中で最も数多く入っていたのはヤマカガシであった。集水槽外でもやはり同種がヘビ類の中で最も多く目撃、採集された。次に多かったのはヒバカリで、落ち込んでいたヘビ類全体の38.9%を占めていたことになる。ヤマカガシ

シがへび類の中で最多となる地域は多い(Fukada 1958, 千石・ほか 1975, 千石・森口 1979, ほか)。しかしながらその次にヒバカリの頻度が高いという報告は、ほとんど知られていない。ヤマカガシ、シマヘビ、ヒバカリの混棲する地域(京都丹波橋 — Fukada 1958, 千葉清澄山系, 神奈川登戸, 神奈川江田 — いずれも千石・森口 1979)を3地域で比較してみても、神奈川江田を除いて、3地域共その目撃、捕獲数はヤマカガシ、シマヘビ、ヒバカリの順であった。この集水槽外の調査では、ヤマカガシに次ぐヘビとして圧倒的にシマヘビが多く、ヒバカリはむしろ稀少な方であった。集水槽における今回の採集がその周辺の構成比を反映している(即ち、ヒバカリの棲息密度はシマヘビよりも高いか、極端に劣っていない)とするならば、こうした集水槽内と外の相違は、この2種類間の生活様式の差を考察する上で興味深い。その点は後述して検討を試みた。(続く)

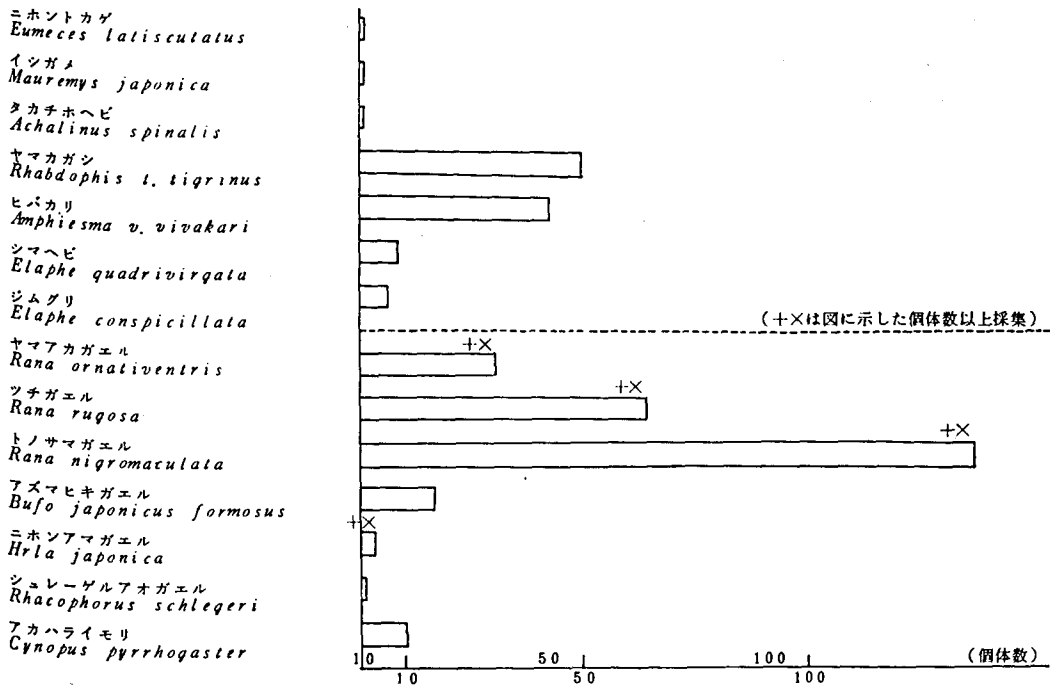


図3. 集水槽に落ち込んでいた爬虫・両生類の総個体数

各務原市歴史民俗資料館

市町村郷土館のモデルとして

各務原市歴史民俗資料館の展示と機能性についてをテーマに、本年度第1回の岐博協博物館学セミナーが、去る6月10日、20人余りの参加者をえて、各務原市保健文化会館内生涯教育センター学習室で開催されました。

当日の課題は、豊富な埋蔵文化財を有する地的条件に恵まれた歴史民俗資料館の機能性を問うモデルとして、考古学的研究・文化財保護育成を基盤とした博物館のあり方、また展示機能面でどのように地域社会に対応するかがポイントであった。

講師にお願いした市社会教育課長 下野昌良先生から、当歴史資料館の経緯と概略が説明され、社会教育課の斉藤先生からは、市内の遺跡について専門的な話がありました。その後、館内の展示を見学した後、郷浩、吉田幸平、広瀬鎮氏の三氏から、博物館学のオーソリティの立場から約15分間ほど意見・話題提供をいただき、質疑応答に入りました。それぞれから、シャープな分析による個性的・専門的な論議が提出されました。

当館の展示内容は、考古資料が主体で、炉畑遺跡、西洞山古墳、稲田山古窯址、山田寺・平蔵寺からの出土品1,400点ばかり、考古資料としてはどれも貴重な価値を有するものですが、展示方法での技術的な問題として、曖昧さ、解説不足が指摘されました。また博物館活動の地平の拡大を認識した上で、実験考古学の導入強化、さらには児童の好奇心をあおり親しみもてる触感学習等の推進による教育活動を高めるための総合的な立場から機能アップを図るための積極的な施策が要求され、さらにはスタッフの強化、発掘調査を文化庁との連携の中で、強力に進める必要性が論じられました。このほかにも、博物館のもつ諸々の機能因子の各面から、

厳しい指摘、要望が続出し、多くの課題を館側に提示しました。今後は、発展的変革の方向に向けて、ラジカルな展開を、市当局の対策方針として推進していただきたいものです。

結論的には、歴史民俗資料館としての機能回復のために、収蔵兼展示体制を考え直し、新鮮なプランニングを確立する中で、予算化、スタッフの増強、展示構成・教育事業の強化等が図られることが望まれます。すばらしい資料、もてる宝物を、いかに市民の日常生活の知的活動に生かし役立てるか、名称は資料館であっても、博物館学的な運営、事業推進が期待されます。

本年度第一回のセミナーとしては、市町村単位の郷土館のモデルとして、その新しい方向性を浮きぼりにしながら、成果のある充実した学習会となりました。

(セミナー委員、亀山久雄)

≡ 図 書 紹 介 ≡

広瀬 鎮著 猿～ものと人間の文化史34～
法政大学出版局 1,500円

「鋸」「農具」「結び」等々、ものと人間の文化史シリーズのひとつで、本協会顧問であり日本モンキーセンター附属博物館学芸部長である広瀬鎮氏の労作、ニホンザルと日本人との種々雑多なかかわりあいの歴史を、庶民の生活の中から探り明かしたもの、狩猟伝承から、祭祀・風習、あるいは美術・工芸、芸能等あらゆる面からニホンザルがとりあげられ、日本人の自然観・動物観を明らかにした広瀬氏ライフワークの一端がまとめられ好著です。

秋の夜長にぜひこの一冊を……どうぞ。

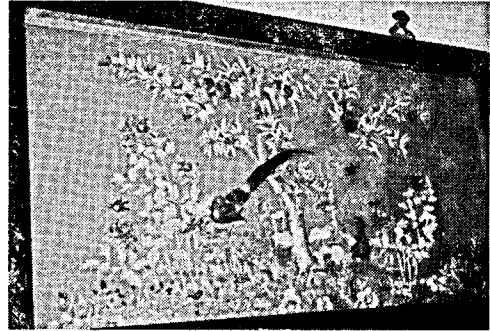
世界に誇る圧倒的な文物!!

郡上八幡民芸美術館 松本 五三

天安門広場は、新しい中国の聖域とでもいうべきで、見渡す限り清潔さが保たれているという感じでした。この広場の正面天安門の裏が故宮博物院であり、その天安門を潜り一直線の石畳を進むと、「故宮」と刻んだ填込石のある建物があり、これでもか、これでもかといわんばかりに、荘大な建造物が私達の目の前に展開して来ました。何しろ故宮の面積は奥行き1km、東西750m、周囲約3kmの広さです。午前中の早い時間というのに、多数の中国の人々の見学者も来ていました。

私は故宮博物院の門を潜った時、日本の宮城を中心としたあの界限とでもいえるのかなあ—という思いがしました。明、清両朝の王城の地であり、大理石をふんだんに敷きつめた広場があり、総大理石の反り橋が我々の眼に強く焼きつきました。保和殿と両翼の建物所が、故宮博物院の中心的な陳列所で、歴代芸術館と呼ばれています。皇帝一族が権力をほしいままにして生活をした調度品など、新石器時代の後期から清朝末年までの貴重な芸術品2,000余点が陳列されているとの説明がありました。

陳列品は、黄金の宝石をちりばめた大香炉、まばゆいばかりの王冠、腰に巻きつける飾り帯、馬鞍などや、翡翠の彫刻玉器、日用品の茶碗、湯呑み、箸、スプーン、それに洗面器までが黄金製であり、漆器、錦織、絵画など、どれも世

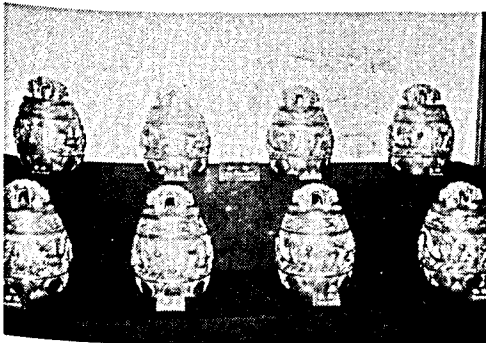


界の超一流の名品が展示されており、考古学者や古典学者、美術家等にしてみれば、数ヶ月の時間をかけても、見つけない資料であろうと思いました。

天安門広場といい、故宮博物院、万里の長城、どれも規模が大きいことが共通しています。さすが領土の広い中国だから、為すことも大きいとビックリするばかり、こんな素晴らしい文化を造り上げた中国の過去現代の人々の底力を再認識せざるを得ませんでした。時間が足りないばかりで、次の行動予定に追われて、2時間30分しか見学できませんでした。ほんの入口をのぞき見た程度で残念でした。

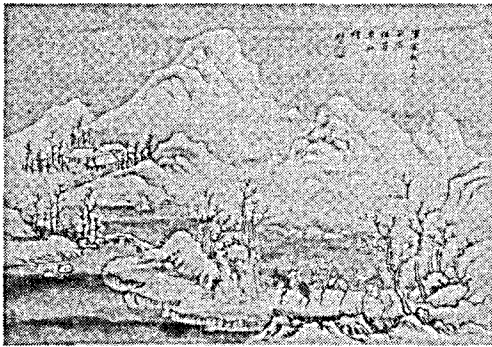
北京での私達の班付の通訳 — 金京陳さん— (今春大学を卒業の女性) は、博物院の文化財 (中国では文物という) について説明してくれました。時の皇帝や貴族が、権力をほしいままにし、人民の苦しみを省りみず、贅の限りを尽して造った封建時代の証拠であり、中国人民はその苦しみに耐えながら優れた技術によって造られた尊い美術品であることを力説しました。

上海、杭州、北京、万里の長城、明の十三陵に於ても、革命を達成するのに、これらの遺産は中国人民に対する革命思想の涵養に資していることを思い、日本の国土の25倍、人口の8倍の国民を統一した毛主席の偉大さを感じながら、次の行動の為にバスに乗ったのでした。



秋の特別展 濃飛の文人……へどうぞ

関市小屋名の岐阜県百年公園内岐阜県博物館では、10月12日(金)～11月14日(水)まで、儒学史上名高い佐藤一斎、日本の季白と称される梁川星巖、頼山陽門下の高弟村瀬藤城、飛騨の国学者田中大秀その他の文人の、遺墨・遺稿・遺品等の関係資料を体系的に展示し、美濃・飛騨での漢字・国学の隆盛をふりかえる特別展を開催します。多数お出かけ下さい。毎週月曜日及び11月6日休館、入館料は大人200円、高・大生130円、小・中生70円。



岐阜県博物館催物案内

◇人文教室 ～濃飛の文人をめぐって～

特別展開催を記念して、富長蝶如先生を講師に、文人の素描及び詩文の講読会が催されます。
期日 10月28日(日) 午前10時～午後3時
参加資格 大学生以上一般、定員50人。

◇自然観察会 ～アカマツの林をさぐる～

百年公園内にみられるいろいろな林とそのつくり、紅葉する樹木、常緑の樹木、……具体的な野外観察を通してアカマツ林のナゾをさぐります。
期日 11月11日(日) 午前10時～午後3時
参加資格 小学校5年生以上中学生まで
定員30人。
米いづれの催しも、参加費はいりません。参加

希望者は、往復はがきで、〒501-32 関市小屋名 岐阜県博物館教育普及係へ申し込むこと。

美濃陶磁歴史館オープン

美濃焼の象徴、志野織部黄瀬戸のふるさと土岐市に去る7月25日オープン、8月25日までの一ヶ月間は、開館記念展として『名陶里がえり』を実施、東京国立博物館、出光美術館その他から約20点の名陶が里がえり展示された。土岐市の陶業の歴史を展示テーマとした新しい博物館が誕生したわけで、今後の諸事業が期待されます。土岐市泉町久尻にあり、中央線土岐市駅より徒歩8分、ぜひお出かけ下さい。

故古川庄作氏に日博協から表彰状授与

去る9月20日から仙台で開かれた日本博物館協会の全国大会の席上で、本協会の理事であり多治見陶磁器陳列館長であられた故古川庄作氏に、その長年の研究生活と博物館活動に対して表彰状が授与されました。ここに謹んでご報告申し上げるとともに、あらためて先生のご冥福をお祈りします。

編集後記

- ◎これまでと少しは違った面が出たものになったのでは……と思っていますがいかがでしょうか。
- ◎具体的な資料収集・整理にかかわる博物館学実践論として、金子先生に、明方歴史民俗資料館の事例をお願いしました。ご期待いただける連載になります。
- ◎ひとりっきりの個人経営館では、調査研究など無縁でしょうか。じっくり考えてみてほしい課題です。地域に密着した、その館ならではの調査研究……さがせばテーマはゴロゴロです。下呂の爬虫類に続いて、この面でも本誌は大いに紙面をさいていくつもりです。積極的な投稿もお願いします。

(S.O)